

国語

➔ 中学年 | 「言葉の学習」

詩「ふしぎ」を書いてみよう

～身の回りから見つけた疑問を言葉にしてみよう～

1. 素朴な疑問や発見を大切にす

中学年になると、子どもたちの視野が急に広がり始め、様々な事柄に対して興味をもって知りたがるようになります。すぐに答えが出るものもあれば、「人はなぜ死ぬのだろう」といった哲学的な疑問を抱く子どもも現れます。

自分を取り巻く社会や自然に目を向けさせることは、理科や社会科の学習内容とも重なります。そこで、国語の言葉の学習として、身の回りから見つけた発見や疑問を言葉にまとめた実践を紹介します。

2. 金子みすゞの詩「ふしぎ」をまねる

導入としては、子どもの日記や、他教科の授業中に出てきた疑問を紹介するとスムーズにいきます。そして、「こんな詩があるのだけれど」と、金子みすゞの「ふしぎ」を紹介し、みんなで音読します。

ふしぎ 金子みすゞ

わたしはふしぎでたまらない、
黒い雲からふる雨が、
銀にひかっていることが。

わたしはふしぎでたまらない、
青いくわの葉たべている、
かいこが白くなることが。

わたしはふしぎでたまらない、
たれもいじらぬ夕顔が、
ひとりでぱらりと開くのが。

わたしはふしぎでたまらない、
たれにきいてもわらってて、
あたりまえだ、ということが。

次に、先ほど紹介した疑問をこの詩の形式に当てはめてみせます。すると、子どもたちは口々に疑問を入れ始めますので、その疑問をカードに書いて集めてみようとして投げかけます。

3. 作品のもつリズムや構造に気づく

子どもの素朴な疑問は、そのままでは詩の形式に当てはめられない場合が多いはずで

- わたしはふしぎでたまらない なんて夏は暑いのか
- わたしはふしぎでたまらない 24時間あることが

これらを個人やグループなどでまとめて音読してもおもしろい作品になりますが、「詩の形式に当てはまるように話し合って工夫するように」と指示すると、さらに学習に深まりが出てきます。

- 夏はとっても暑いのに 冬には寒くなることが
- 時間は無限に続くのに 一日24時間が

最後に、全員の疑問を次のようにいくつかの対象ごとに分類して詩にまとめてしめくります。

【ふしぎ(人編)】

- いつもうるさい弟が ゲームの時だけ静かなことが
- 道路にゴミをすててって 平気な人がいることが
- 人は元気に笑うのに いつかは必ず死ぬことが

【ふしぎ(自然編)】

- 木から生まれるペーパーが とても白くなることが
- 海の色は青いのに すくうと透き通っていることが

4. 「ふしぎ」をためていく

この学習後も、子どもの日記やノートなどの中で、自分が感じた疑問を「わたしはふしぎでたまらない」のフレーズで書いている子を見かけるようになります。「今日のふしぎ」などと題して教室に掲示し、日々書き足したり、わかったことには「解決シール」を貼っていったりしてもおもしろい活動となります。